

一般演題 治療装置・運用 OP7-6 高気圧酸素療法導入時の看護師の役割

○小堀達哉¹⁾ 山下 恵¹⁾ 佐藤正樹²⁾ 村田直樹²⁾
得能香奈³⁾ 四宮敏彦⁴⁾ 栗原征宏⁵⁾

- | | | |
|----|------------------|-------|
| 1) | 大宮中央総合病院 | 看護部 |
| 2) | 大宮中央総合病院 | 臨床工学科 |
| 3) | 大宮中央総合病院 | 形成外科 |
| 4) | 大宮中央総合病院 | 腎臓内科 |
| 5) | 自治医科大学附属埼玉医療センター | 形成外科 |

【はじめに】

自施設は、埼玉県さいたま市北区医療圏にある255床の2次救急病院であり、近隣には高度急性期病院が多くあるが、自施設のような後方支援病院を担っている病院は少ない。高度急性期病院からの患者の受け入れや地域住民への適切な治療の提供から、可能な限り短期間で自宅や施設での生活を送れるように支援している。今回、2023年1月に高気圧酸素治療（以下HBO）装置の導入を看護師という立場から提案し、導入まで至った取り組みに関して報告する。

【取り組み】

導入にあたり、近隣の医療機関でのHBO治療実績の把握や現状を確認し、院内の予算委員会で提案した。また、医師・臨床工学技士科長・看護部長にも協力頂き、機器の選定や看護師への勉強会の開催を臨床工学科と共に行った。治療実績のある医療機関を医師とともに見学し、HBO装置の運用マニュアル（初版）の作成を行い、臨床工学技士へ引き継ぎ導入まで至った。

【現状】

2023年1月～2024年1月までの治療件数1,412件（市内在住患者は74名中56名）。年間1,000件を超え、新たに2台目を導入し治療を行っている。当初は20症例だったが、徐々に実施する科が増え平均的に100症例/月を超えるようになった。

【考察】

看護師の立場から導入を提案し、自施設の治療の一つに繋げることが出来たのは、病院だけでなく地域に暮らす患者にとって有用なものとなったからと考える。昨今、医療の高度化に加え保健・医療・福祉の充実により平均寿命が延伸した一方で、少子高齢化は進み地域での医療が求められている。このような変化に対応し、看護師の在り方も共に変化していかななくてはならない。看護師の役割は主に看護ケアや患者対応、診療上の補助という看護の専門性を生かした業務である。導入する上では病院の理念や方針を理解し、病院という内部環境に目を向けるだけでなく、幅広い視点で地域という外部環境を考え導入し、専門外のとこ

ろは、多職種との連携をとりマネジメントしていくことも看護の役割として重要である。また、運用開始時は形成外科で導入したため、他科での運用が浸透するまでに時間はかかる想定したが、実際は1年で様々な科での運用が行えた。

【結語】

病院の理念・方針を理解し、地域のニーズと融合させ、さらに様々な問題点や課題は多職種と連携をとることで解決しHBO導入まで繋げることが出来た。導入後は適応疾患のバリエーションが増え、地域医療の一役を担うことが出来た。HBOを通して、今後もより多くの医療機関との連携をとる事で、地域医療へ貢献できると考える。